

H. K.

8月17日から22日まで、男子バスケットボール中学チームの通訳を担当しました。参加する前は不安でしかありませんでした。現地の方と韓国語で会話するのは昨年ぶりであり、授業で学んでいる韓国語が実際に通じるのかどうかも不安でした。通訳の経験も初めてだったため、どのように進めればよいのか分からないまま挑む形となりました。



実際に現場に入ってみると、専門用語やインターネットでは出てこない単語が多く出てきて焦る場面もありました。担当が中学男子バスケットボールだったこともあり、選手の怪我が多く、試合中の通訳よりも大変だったと感じました。看護師の方が治療を行えなかったため、通訳以外にも私自身が手当をしたり、必要な道具を手配したりする場面もあり、非常に忙しい毎日でした。

それでも、結果としてはとても良い経験になりました。私自身、韓国語がまだ拙く、多くの場面で迷惑をかけてしまったことを申し訳なく感じていますが、なかなかできない貴重な体験をすることができました。韓国のスポーツ財団の方々をはじめ、Jスポーツの皆様にも一週間という短い間でしたが、大変お世話になりました。

最初は不安でいっぱいでしたが、日を追うごとに少しずつ慣れていきました。韓国語がつかない分、他のところで補おうと思い、食事や移動をスムーズに行えるよう心がけました。多くの方々に助けていただきながらの通訳でしたが、その分、深く感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の経験を通して、もし今後またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思いました。ただ教室で学ぶだけでなく、実際に現地の方と直接話すことの大切さを実感しました。これからは曖昧に広く学ぶのではなく、一つ一つの単語の発音をより明確にして、韓国語をしっかりと学んでいきたいと思います。

